

パンタナル通信

南北米福地開発協会

会報

2013年10月1日

121号

世界平和地球村の建設と自然環境の保護

第十三回国際協力青年奉仕隊活動報告特集



トロパンパ村の学校の先生を中心に隊員と学校の生徒達（8月31日）

【教育支援で未来を拓く】
日本を出発した十三名の隊員はパラグアイでブラジルからの隊員五名と合流し、そして二名のスタッフを加え二〇名でパラグアイ各地で、現地を訪れ、学校の修復、植樹活動、そして文化交流を行いました。首都、アスンシオンに二七日到着し、二八日はバスで五〇〇kmを移動し、八〇年前にドイツから宗教的信念を守るため移住しメノナイトが開拓したローマブラタ市を見学しました。
雨量が約年間八〇〇ミリの乾燥した不毛の地に、立派な都市を建設した歴史を学びました。
二九日から三日間は今回の奉仕の中心地、トロパンパ村で活動になりました。
トロパンパ村は人口九〇〇名で内陸にあり、常に水不足に悩まされている過疎地域です。水は全て雨水に頼り、池に集めたり、地下に飲み水として溜め、それを井戸として汲みだして生活をしています。地下は塩分が多く、地下水を飲み水として使用することが出来ないため、特に飲料水が問題となっています。
隊員は現地の水を飲むことが出来ないのを持って行った水で過ごし、体はタオルで拭く生活となりました。
日本の支援者の支援を受けて準備し、今迄各学年に一冊しかない教科書を学年ごとに三〇冊、文具（ノート、鉛筆）、机、椅子、先生用の机、教科書を保管する本棚等を贈呈することが出来ました。また、教室の内壁と校舎の外壁を先生、生徒達と共にペンキ塗りを行い、壊れた窓ガラスを交換しました。





青年達が到着し、学校での歓迎会で、生徒達が合唱とパラグアイの伝統的衣装を着て、踊りを披露してくれました。日本の青年達も踊りと歌で感謝を表し、その後、日本のNPO日本救済衣料センターから提供してもらったTシャツを二二〇名の学校の生徒、一人一人に隊員から渡しました。トロパンパ村では学校の修復に、三日間、授業を休み、課外活動として青年奉仕隊の青年と共に、村の中心道路に木を植えました。緑化活動を村始まって以来、初めて行いました。

また、青年と生徒達は活動の合間に、サッカーやバレーボール等のスポーツ交流、日本から持って行った折り紙を使つての折り紙教室、日本の青年達と共に音楽のリズムに合わせて踊るなど、文化交流の時間を楽しみました。





第十三回奉仕隊活動の目的地の一つ、ミンガグアス市では今回、三回目の活動で市と共同して市民の憩いの公園作りを、現地の中高生とともに行いました。

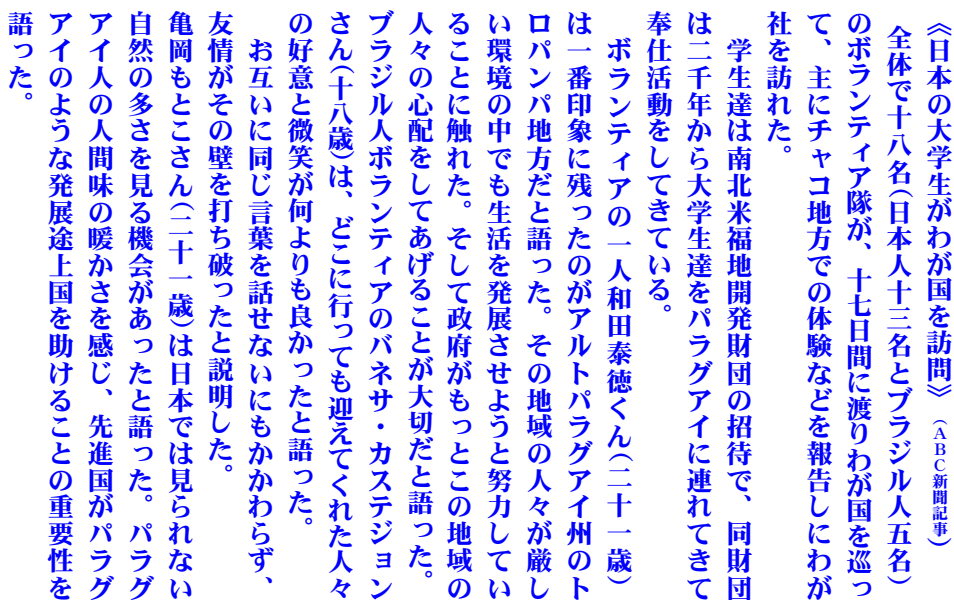
ミンガグアス市では南北米福地開発協会の協力が市の環境保護に対し、多大な貢献をしたことを感謝し、市長から当協会に感謝状が送られました。また、一緒に植林活動に参加した学校の校長先生は、日本からの奉仕隊の活動が学校の学生の環境保護の意識を高めてくれ、心から感謝していると挨拶をしていました。

市長、市の関係者、学校の関係者と学生、そして青年奉仕隊の隊員が参加した現場での式典の後、市長と柴沼隊長が記念植樹を行いました。今年は今迄に一万三千本の苗木を市へ寄贈しており、今回の青年奉仕隊の活動とともに五十か所の学校で百本の苗木を植え、総数五千本を植えました。



青年隊員は奉仕活動とともに神様が創造した自然の素晴らしさに触れ、環境保全の重要性を体感する経験もしました。チャコの大自然の中にある南北米福地財団の基地、レダでのひと時を楽しみ、奉仕隊最後のスケジュールでは世界最大のイグアスの滝を見学しました。





地球家族として
自然を守りましょう

南北米福地開発協会
会員の募集中

南米、パラグアイ・パンタナル地域
へのエコツアーならびに植林活動
を通じて
生態系の維持と強化を促進し、その
地域をモデルとし、
世界に環境保護の大切さを
訴えています。

会費は月五〇〇円、毎月、パンタナ
ル通信を送ります。
また、
各種のセミナー、エコツアー等の